



たかさき  
高崎



しゅわ  
手話

おぼ  
覚える



ねが  
お願い



いっしょ  
一緒に



たの  
楽しい

市民のみなさんが、ろう者の言語である手話に興味を持ち、手話を覚え、コミュニケーションの機会が増えることを願っています。もし手話がわからなくても、身振りや、目で見てわかる方法で伝えることができます。ろう者にはもちろん、高齢で耳が遠くなった方、小さいお子さんにも伝わりやすくなります。それは「誰にとってもわかりやすい」ということです。

～誰もが生きやすい共生社会の実現を目指して～

発行元：高崎市障害福祉課

TEL：027-321-1245 FAX：027-326-8876

E-mail：shougai-fukushi@city.takasaki.gunma.jp

令和2(2020)年12月発行



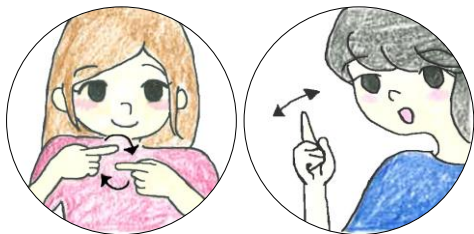
# ふれよう手話に!

## たの しゅわ 楽しもう手話を!



たかきしでは、しゅわ おんせいげんご こと げんご になんじき ち  
高崎市では、手話は音声言語と異なる言語であるとの認識に立  
ち、ろう者及びろう者以外のものが共に生きる共生社会の実現  
しゅおよ しゅいがい もの とも い きょうせいしゃかい じつげん  
に寄与することを目的として、たかきししゅわげんごじょうらい さいてい  
へいせい ねん がついつだち しこう  
平成29(2017)年4月1日より施行しています。

手話ってなあに？



ろう者の大切なコミュニケーション方法のひとつです。ろう者集団の中で作られ、発展し、大切に守られてきた、音声言語とは全く別の体系を持った言語です。

群馬県で最初のろう者集団は、

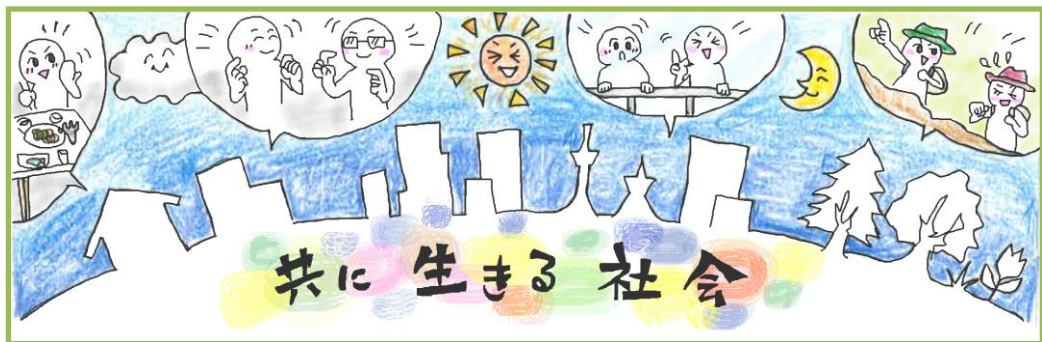
「私立高崎聾啞学校」

(大正11(1922)年4月10日設立) に集まった子ども達でした。ここで育まれてきた手話は、手話サークルの立ち上げや手話通訳者の育成につながっています。

手話を使用しやすい環境を作ること、ろう者及びろう者以外の者が、お互いに人格と個性を尊重し合いながら共生する社会を実現することができます。

高崎市は、聞こえる、聞こえないに関わらず、すべての人がお互いに人格と個性を尊重する共生社会の実現を目指しています。

高崎市手話言語条例って？



じ こしょうかい  
自己紹介をしてみよう



**あいさつ** おはよう こんにちは こんばんは



**自己紹介** 「私の名前は〇〇です。よろしくお願いします。」



高崎市では、医療、労働、教育、地域活動など、社会生活のさまざまな場面に、手話通訳者や要約筆記者（手書き・パソコン）の派遣をしています。

手話通訳、要約筆記は、聴覚障害者と聞こえる人のコミュニケーションをつなぐ、大切な仕事です。手話通訳者は、ろう者の手話を音声に、聞こえる人の声を手話にかえて伝えます。要約筆記者は、手書きやパソコンで、相手の声を文字にして伝えます。

あなたも目指してみませんか？



# ゆびもじ 指文字

わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ
しょうおん 拗音、促音 (や) (こ) うし 後ろに引く	り (か) ←	だくおん 濁音 (が) よこ 横に移動	み	ひ	に	ち	し	き	い
を	る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	く	う
ちようおん 長音 した 下におろす	れ	はんたくおん 半濁音 (ひ) うえ、いどう 上に移動	め	へ	ね	て	せ	け	え
ん	ろ	よ	も	ほ	の	と	そ	こ	お

# すうじ 数字

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
10	15 ① ②	20	30	40	50	60	70	80	90
100	200	500	700	1000 A	1000 B	2000	5000	7000	万





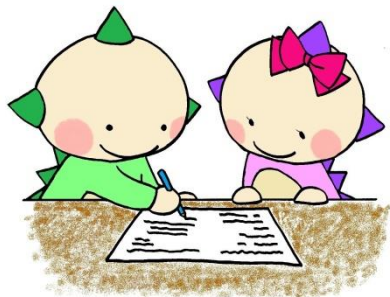
役割は？

条例では、市、市民、事業者それぞれの役割を明示しています。

### 【市がすること】

市民の手話への理解、手話の普及促進及び手話を使用しやすい環境の整備を図るための施策を作り、実施します。

施策は計画的に進められ、市民が手話を学ぶ機会を確保したり、事業者の取り組みを支援したりします。



### 【市民がすること】

条例の目的や基本理念を理解するように努力します。

### 【事業者がすること】

ろう者が利用しやすいサービスを提供したり、ろう者が働きやすい環境を整備するように努力します。



### 学校における手話の普及

ろう児等（聴覚障害のある幼児、児童又は生徒）が、自らの言語である手話を獲得し、手話で学べる環境を整えるのは、とても重要なことです。条例は、ろう児等が通学する学校の設置者が、その環境を整えるよう努力すると定めています。



## ちょうかくしょうがい 聴覚障害ってなあに？



ちょうかく しょうがい ひと ちょうかくしょうがいしゃ ちょうりよく ていど  
聴覚に障害のある人を「聴覚障害者」といいます。聴力の程度  
はひとそれぞれ。「まったく聞こえない・聞こえにくい・補聴器を付けられ  
ば少し聞こえる」など、さまざまです。

「ろう者」 手話を言語として使用している人

「難聴者」 聞こえにくさを感じている人

「中途失聴者」 病気や事故などで聴力を失った人

「ろう重複障害者」 聴覚障害の他に、別の障害を併せもつ人

「盲ろう者」 視覚と聴覚の両方に障害を併せもつ人



## ほうほう コミュニケーション方法は？



きこえなくなつた（きこえにくくなつた）じきや、きこえのていどなど  
によって、その人に合うコミュニケーション方法があります。

「手話」手や指、表情などによって、気持ちを伝えあふ視覚的な  
言語です。地域、年代によって表現が多少違います。

「指文字」50音を指の形で表します。手話を補足するときや、  
名前などの固有名詞を表す時に使います。

「筆談」紙などに文字を書いて伝えます。

「読話」「口話」口の動きを見て言葉を読み取ります。

「触手話」「指点字」手や指に触れて盲ろう者に伝えます。

# 聞こえないと困ることってなあに？



世の中は音であふれています。

- ・何も聞こえなかったら？
- ・聞こえにくかったら？

～想像してみましょ～

家で… (朝起きるとき 連絡したい 来訪者 テレビ 家族の会話)

外で… (お店で 自動車や自転車の音 電車が止まった 職場で)

もしも… (病気 火事 事件 災害が起きたとき 避難所で)

# 私たちができることってなあに？



聴覚障害は、外見ではわかりにくいために、周囲の人に聞こえないことをわかってもらえなかったり、コミュニケーションがうまく回れず、さまざまな場面で困ることがたくさんあります。

もしかして聞こえていないのかも・・・と気づいたら

大切なのは

「伝えたい」

「わかりたい」

という気持ちです。

- ・話しかけるときは、軽く肩をたたく、手を振るなどの合図をする
- ・視線が合ってから話し始める
- ・表情や口元が見えるように、正面で話す
- ・複数の人がいるときは、一人ずつ話す
- ・手話で話すときは、

手だけでなく表情や体の動きも使う

